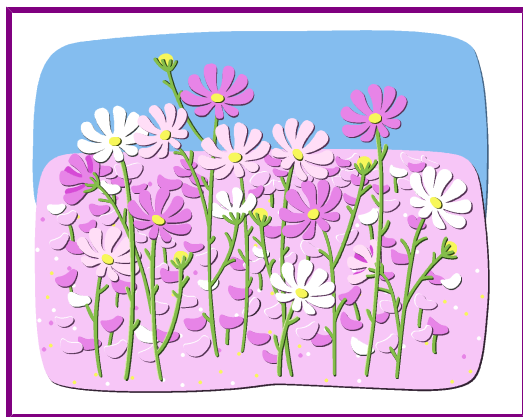


めぐみイエス・キリスト教会

2020年9月13日(日)第二主日礼拝
週報「通算第523号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時~11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時~(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年9月13日 第二主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.59第Ⅰヨハネの手紙第4章抜粋 p. 927

【賛美Ⅱ】 新聖歌515「わが罪のために」 p. 819

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.16「神の都へ」

【聖書朗読】 使徒の働き4章32節～37節(2017新約p. 240上段)

【礼拝説教】 《共同体？》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き4章32節～37節

4:32 さて、信じた大勢の人々は心と意思を一つにして、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わず、すべてを共有していた。

4:33 使徒たちは、主イエスの復活を大きな力をもって証しし、大きな恵みが彼ら全員の上にあった。

4:34 彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持って来て、

4:35 使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。

4:36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、

4:37 所有していた畑を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

●ポイント1. 「エルサレム教会」とは？

※使徒の働き2章40節～47節「ペンテコステの後に」(新約p.236上段)

2:40 ペテロは、ほかにも多くの言葉をもって証しをし、「この曲がった時代から救われなさい」と言って、彼らに勧めた。

2:41 彼の言葉を受け入れた人々はバプテスマを受けた。その日、三千人ほどが仲間に加えられた。

2:42 彼らはいつも、使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。

2:43 すべての人に恐れが生じ、使徒たちによって多くの不思議としるしが行なわれていた。

2:44 信者となった人々はみな一つになって、一切の物を共有し、

2:45 財産や所有物を売っては、それぞれの必要に応じて、皆に分配していた。

2:46 そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、

2:47 神を賛美し、民全体から好意を持たれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてくださった。

※使徒の働き4章4節「美しの門での奇跡の後に」(新約p.238下段)

4:4 しかし、話を聞いた人々のうち大勢が信じ、男の数が五千人ほどになった。

●ポイント2. 「愛の共同体」とは？

※ヨハネの福音書13章34節～35節「主の新しい命令」(新約p.213上段)

13:34「私はあなたがたに新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

13:35 互いの中に愛があるなら、それによって、あなたがたが私の弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」

●ポイント3. 「慰めの子」バルナバとは？

※使徒の働き1章15節～26節「十二使徒の補充」(新約p.233上段右側)

◎先週のメッセージの概要【祈り終わると】

《最高法院から釈放されたペテロとヨハネはすぐに教会に戻りました。「今後、イエスの名によって語ることも教えることもいっさいしてはならない」と強く命じられた事を報告したのです。イスラエルでは、議会で決められたことは、神が決定されたと言う理解が一般的になされていました。

しかし彼らは、聖書に預言されたメシアが、主イエスであることを知っていたのです。使徒たちは、集まって心を一つにして祈り始めました。

「主よ。あなたは天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方です。あなたは聖霊によってダビデの口を通して、こう言われました。『なぜ諸々の国民はむなしいことを企むのか。地の王たちは立ち構え、君主たちは相ともに集まるのか、主と主に油注がれた者に対して。』」と。

これは、使徒たちの現在の状況に当てはまる預言でもあるのです。「事実、ヘロデとピラトはイスラエルの民と共にイエスに逆らってこの都に集まり、あなたの計画によって定められていたことすべてを行いました。」

ここには、主イエスの十字架刑は父なる神様の御手の中において、またその計画の中に行なわれたことが、明確に示めされています。

ところで、彼らは、なぜこの祈りを捧げたのでしょうか。

「主よ。今、彼らの脅かしをご覧になって、しもべたちにあなたのみ言葉を大胆に語らせて下さい。また、御手を伸ばし、あなたの聖なるしもべイエスの名によって、癒やしとしるしと不思議を行わせて下さい。」と。

彼らは恐れたのです。教会の指導者であるペテロとヨハネが捕らえられ残された使徒たちは途方に暮れ恐れが生じたのです。また、二人が報告した議会の決議事項も、恐れを増強させたのです。それだからこそ、使徒たちは心を一つにして祈り求めたのです。パウロは勧めています。

『神は私たちに、臆病の霊ではなく力と愛と慎みの霊を与えて下さいました。』と。私たちは恐れます。状況や目で見える事実によって恐れが生じるのです。しかし私たちの人生は、神様と二人三脚をしているのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、9月20日(日)教会にて行ないます。第二礼拝はありません。また、聖書の学びと祈り会は、水曜日に各家庭にて行ないます。